

なぜこう訳されているのか（１）

—— 村上春樹を英語で読む（２－１） ——

Haruki Murakami in English (2-1)

塩 濱 久 雄

キーワード：英語、日本語、翻訳

0. はじめに

村上春樹『アフターダーク』に次のような文がある。あるファミリーレストランにおける、登場人物の一人の「もう一人の登場人物の前のテーブルに置かれているサンドイッチ」を目にしている発言である。下はその英訳である。

あのさ、その残っているサンドイッチだけど、もし食べないんならひとつもらってもいいかな。
(146)

Uh, those little sandwiches you've got sitting on your plate: if you're not planning to eat them, mind if I have one?

原文の「その残っているサンドイッチ」という発言は、「そこにあるサンドイッチがもとからそのような状態ではなく、それを食べている人が残したものである」と話者が推測していることを表わしていると考えられる。

この部分を英訳者は単に「皿に乗っているサンドイッチ」と訳していて、left（残されている）とは訳していない。

そして、「サンドイッチを食べている人」によるこの発言への返答は次のようになっている。
「残っているのはツナだけど」(146)

"All that's left are tuna fish."

この場合は「残っている」がleft（残されている）と訳されている。これは話者の推測ではなく、話者自身が「残した」からであると考えられる。

この直前の部分に小説の語り手による次のような描写がある。

サンドイッチは半分残されている。(133)

The sandwiches are half gone.

この場合も、原文ではサンドイッチが半分くらいしか乗っていない皿を見て、「半分残されて

いる」と書かれているが、英語は *half gone* (半分なくなっている) となっている。

皿とサンドイッチの量の関係から、語り手の立場から「もとあった量の半分くらいが皿に乗っている」ところを、「半分なくなっている」とは描写できるが、それをその時点に至る意図的動作を推測して「半分残されている (*half left*)」とは言えないのである。

次も同様である。

五反田君は三分の一ほどビールの残ったグラスを、試験管でも振るみたいにふらふらと揺らしていた。『ダンス』(下333)

Gotanda swished his two-thirds empty glass around like a test tube. (356)

「三分の一ほどビールの残ったグラス」が *two-thirds empty glass* (三分の二空のグラス) と訳されている。「三分の二空」はグラスを見ただけでわかるが、「残った」は推測である。

また、日本版ウィキペディアに次のような記事がある。

グラスに半分残った水を見て「まだ半分もある」と言うのは楽天主義者、「もう半分しかない」というのは悲観主義者という有名な性格判断法がある。これは英語では *Glass Half Empty or Half Full?* という定番の言い回しになっている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A5%BD%E5%A4%A9%E4%B8%BB%E7%BE%A9>

そして、同じ話題に関する別の英語サイトに次のような文がある。

There is the simple test to tell if you are optimistic or not, if you view a glass as half full or half empty. But what if you think half left? would that be conservative (Not government)? The premise is that you already drank exactly half.

<http://www.eve-search.com/thread/1183477>

和訳すると、「人が楽観的であるかないかを調べる簡単なテストがある。グラスを見て半分入っていると見るか半分空と見るか。しかし、もし半分残っていると考えるとどうなのだろう？ それは保守的ということだろうか（政府の話ではない）。前提として既に自分で正確に半分飲んだということがある」となる。

つまり、誰かが飲んだグラスの状態を見ただけであれば *half full or half empty* の関係になるが、自分で「残した」場合には *half left* になるということである。

本稿では、このように、同じ日本語が、状況によって、異なる英語で訳されている例を示して、どのような場合にそれが起こるのかを考える。

1. 英語は現時点の状況を、その時点に至る直前の過程を推測して言語化しない

上の「はじめに」で、他人が飲んでいるグラスなどに関して、日本語では「半分残っている」と言える状況が、英語では *half full*、*half empty* と表現される、ということを示した。これを、筆者は「英語は現時点の状況を、その時点に至る直前の過程を推測して言語化しない」とまとめて考えてみたい。

以下、類例を検討する。

(1) 「残す」「残る」などに関する例

そして売れ残っている貧相なゴムの木を買ったの。『IQ84』(2-108)

Instead, I bought this sad little rubber plant, one of the last ones they had.

これは、発話者が店に入り「売れ残っている」と思ったゴムの木を買う場面であるが、「売れ残っている」が *one of the last ones they had* (彼らが持っている (=売っている) 最後のもののうちのひとつ) と訳されている。筆者の読みでは、原文は「店には一個しか残っていなかった」となるが、英訳では複数あって、そのうちのひとつを買ったことになっている。

店のある棚にゴムの木がいくつか存在している場合、その棚にある程度のスペースがあれば、もっとたくさんあったであろうということは当然考えられる。そして、その状況で、英語では「そのゴムの木が残されている (left)」とは表現されていないのである。

次の例の「火星の表面に残された水路」の「残された」も推測である。

それは水銀灯の奥行きのない光の下では、火星の表面に残された水路のあとのように見える。しかしその水路は何ひとつ彼に教えてくれない。『IQ84』(2-429)

In the flat light of the mercury-vapor lamp they looked like the canals on the surface of Mars, but they told him absolutely nothing.

「火星の表面に残された水路」が *the canals on the surface of Mars* (火星の表面にある水路) と訳されている。原文には、もともと火星に生物がいて、彼らが水路を作り、その後彼らが絶滅し「水路が残された」という発想があるのであろう。すると「残された」は推測で、英訳では表現されていない。

(類例)

午後遅く父親が検査室に運ばれていったあとのベッドには、哀れなほど小さな人型がくぼみとして残されているだけだった。『IQ84』(3-102)

In the afternoon when his father was at the examination room, the only thing on his bed was the small, pitiful, person-shaped depression.

「残されているだけだった」が *the only thing on his bed was* (ベッドにあった唯一のものは) と訳されている。父親が「残した」わけではない。

小松はハイボールの残りを一息でのみ、残った氷を宙でからからと振った。『IQ84』(3-368)

Komatsu drained the last of his highball and clinked the ice around in the empty glass.

「残った氷を宙でからからと振った」が *clinked the ice around in the empty glass* (空のグラスの中で氷をからからと音を立てて振った) と訳されている。

部屋にはまだ薬品の匂いが微かに残っていた。病人が残していった息づかいをかき取ることさえできた。『IQ84』(3-434)

The room still had a medicinal smell, and you could still detect the breath of a sick person hanging in the air.

「まだ～残っていた」が still had、「残していった息づかいをかぎ取る」が still detect the breath と訳されている。

(2) その他のそこに至る過程に関する推測が英訳されていない例

十分後に女の子がボーイと一緒にロビーに下りてきた。『ダンス』(上222)

Ten minutes later the bellboy and the girl appeared in the lobby.

この「女の子」は、ホテルの十階に宿泊していて、この段階でホテルを引き払うことになり、「僕」と一緒に東京に帰る、という設定である。「僕」は先にロビーにいて彼女を待っている。これは、そのときの「僕 (=語り手)」のことばである。

原文は「ロビーに下りてきた」となっているのであるが、英文を和訳すると「十分後にボーイと女の子がロビーに現れた」となる。英訳では「下りてきた」は訳出されていない。それは、「僕」が実際に見たのは「ロビーに現れた女の子」であって、その「女の子」が「下りてきた」ところは見ていないからである。すると、「下りてきた」は推測である。

もちろん、次の参考例のように、「僕」が自分で「ロビーに下りた」場合は当然 I went down to the lobby と訳されている。

(参考例)

ロビーに下りてみると、カウンターに例の眼鏡をかけた女の子がいた。『ダンス』(上132)

Then I went down to the lobby and saw that the young woman with glasses was behind the counter. (58)

次例では、「出向いてきた」が was outside the door (ドアの外にいた) と訳されている。あるいは深田絵里子が誰かに牛河の行為を通報し、その誰かが出向いてきたのかもしれない。『1Q84』(3-323)

Or had she informed somebody else of what Ushikawa was up to, and that person was outside the door?

これは、ドアにノックがあって、中にいた人物が、「いったい誰だろう」と考えている場面である。「ノックをした人」がどこから「出向いてきた」というのは推測である。そこで、英訳では was outside the door と訳されている。

類例。

「しかし変だな。人間がここにやってくることはないはずなんだが」と誰かが言った。『1Q84』(2-166)

“That’s weird. There shouldn’t be any humans here,” someone adds.

この場面は「猫の町」にたまたまやってきた人間がいて、その匂いから猫たちが、人間がいる

のではないかと嗅ぎまわり、ある場所ではっきりとその匂いの出所を突き止めたところである。「やってくる」がbeと訳されている。

次の参考例はこの直後の猫の発話であるが、「猫の町に人間が入ってくる」可能性について話をしているので、「直前の過程に関する推測」ではない。そこで、get into が用いられている。

(参考例)

「ああ、そうだと。人間がこの猫の町に入ってくるわけがない」『IQ84』(2-166)

“No, of course not. There's no way a human could get into this town of cats.”

以下は同様の例と考えられる。

翌日目が覚めたとき、世界はまだ無事に続いていた。そしてものごとは前に向かって既に動き出していた。前にいるすべての生き物を片端から轢き殺していく、インド神話の巨大な車のように。『IQ84』(1-377)

When he woke up the next day, the world was still there, and things were already moving forward, like the great karmic wheel of Indian mythology that kills every living thing in its path.

「まだ無事に続いていた」がwas still there (まだそこにあった)と訳されている。「続いていた」は推測である。

彼の口調はすっかり以前のものに戻っていた。『IQ84』(3-292)

His voice sounded like the old Komatsu.

英文を和訳すると、「彼の声は以前の小松のように聞こえた」となる。「戻った」は推測である。

2. これから予測・推測される行動を否定している原文が、肯定文で英訳されている場合

十字路があるとする。それをそばの高いビルの屋上から眺めていると、一台の車はその交差点に向かって走って行く。そして、そのまま交差点を超えて直進して行った。この場合、もちろん「その車は直進して行った」と言える。

同じ状況で「その車は(交差点で)曲がらなかった」とも言える。もしかしたらこの車は「右へ曲がるのではないだろうか」と思っていたが「直進して行った」場合には「その車は曲がらなかった」と言える。

「直進した」には一つの解釈しかないが、「曲がらなかった」には、「直進した」以外に、理屈を言えば、「止まった」「逆走した」などの解釈も成り立つ。「曲がらなかった」は、現実的にはともかく、理論的には多義的である。そして、日本語ではこの種の表現の解釈は聞き手(読み手)の常識的判断に委ねられている。

つまり、「Aをしない」という表現が、ある一つの「Bをする」の意味になるのは、いくつかの選択肢のうちの一つの場合である。学校で「廊下を走っている生徒」が、先生に「廊下を走るな」と言われて、「停止し、その場に立ち尽くしたままになる」のも選択肢の一つである。

しかし実際にはこの解釈を選ぶことは普通ではない。「(廊下を) 歩く」を選ぶはずである。

村上春樹の『世界の終りとハードボイルドワンダーランド』に次のような文がある。

「足を止めないで！」と彼女が私の耳に向けてどなった。(下188)

原文は、「Aをしない」という表現になっているのであるが、これは「(私が) 足を止めるかもしれない」と考えた彼女が、その予測に基づいて「A (足を止めること) をするな」と言っているのである。では、この場合の「Bをする」の「B」は何になるのか。「動き続ける」であると考えられる。

そこで、この部分の英訳は次のようになっている。

“Keep moving!” she yelled in my ear.

「動き続けろ」と訳されているのである。

この項では、このように原文が否定文でその英訳が肯定文になっている例を挙げる。

「目を閉じちゃいけない」とジョニー・ウォーカーはきっぱりとした声で言った。『カフカ』(上310)

“You have to look!” Johnnie Walker commanded. (155)

「目を閉じちゃいけない」が *You have to look!* (見なくてはならない) と訳されている。原文は「目を閉じるかもしれないという」予測を否定している。

「そのまま姿勢を変えずにいて下さい」『IQ84』(2-238)

“Please stay in that exact position”

英訳は「そのままの姿勢でいてください」となっている。原文は「姿勢を変えるかもしれない」という予測を否定している。

でも休むわけにはいかないんです。『世界の終り』(上339)

“But I must work.”

英訳は「でも働かなくてはならない」となっている。原文は「休むかもしれないという」予測を否定している。

先生や校医によって観察された、意識を失っているあいだに子どもたちが見せた症状も、それが集団催眠であると仮定すれば、決して不自然なものではありません。『カフカ』(上131)

From the symptoms of the homeroom teacher and school doctor observed at the scene, this hypothesis made the most sense. (68)

「決して不自然なものではありません」が *made the most sense* (もっとも意味が通る) と訳されている。原文は「不自然なものと思われるかもしれない」という予測を否定している。

そして高松市内の閑静な場所にマンションを買い、そこに落ちついた。もう他の場所に移るつもりはないようだった。『カフカ』(上338)

She moved into an apartment she'd purchased in a quiet part of the city and seemed to settle down again. (169)

「もう他の場所に移るつもりはないようだった」が *seemed to settle down again* (ふたたび落ち着いたようだった) と訳されている。原文は「ほかの場所に移るかもしれない」という予測を否定している。

ドアは開かない。しかし彼女は音もなくその奥に消える。『カフカ』(上462)

The door is shut, yet soundlessly she disappears. (229)

これは「彼女」が「ドアが開いてそこを通過して出ていく」ように見えたのだが、ドアは閉じたままで、その向こうへ移動した、という場面である。「ドアは開かない」が *The door is shut* (ドアは閉じている) と訳されている。原文は「ドアが開くであろう」という予測を否定している。

引きだしからパスポートを出して、まだ有効期限が切れていないことを確認した。『スプートニク』(126)

I pulled my passport out of a drawer and checked it was still valid.

「まだ有効期限が切れていないことを確認した」が *checked it was still valid* (まだ有効であることを確認した) と訳されている。原文は「有効期限が切れているかもしれない」という予測を否定している。

夕方のフェリーはまだ出発していなかった。『スプートニク』(133)

The evening ferry was still in the port.

「まだ出発していなかった」が *was still in the port* (まだ港にいた) と訳されている。原文は「フェリーが出発しているかもしれない」という予測を否定している。

それ以外に方法はないさ。『1Q84』(1-48)

It's the only way.

英訳は「それが唯一の方法である」となっている。原文は「それ以外に方法があるかもしれない」という予測を否定している。

これはユーモアなんかじゃない、と天吾は思った。しかし口には出さなかった。『1Q84』(1-311)

This is nota a humor, Tengo thought, but he kept it to himself.

「口には出さなかった」が *he kept it to himself* (自分だけのことにした) と訳されている。原文は「口に出すかもしれない」という予測を否定している。(なお *This is nota a humor* は、原本ではイタリックである。本稿では例文をイタリックにしているので、ここでは逆にした) 話はまだ終わっていない。『1Q84』(2-15)

There was still more to tell.

英訳は「まだ言うことがある」となっている。原文は「終わっているかもしれない」という推測を否定している。

カーペットを踏みしめながら、呼吸が乱れていないことを確認した。『1Q84』(2-155)

Sinking step after careful step into the deep carpet, she made sure that her breathing was under control.

「呼吸が乱れていないことを確認した」が *made sure that her breathing was under control* (呼吸が制御されていることを確認した) と訳されている。原文は「呼吸が乱れているかもしれない」という推測を否定している。

洗面所に行っているあいだに天吾が姿を見せることを恐れ、ココア以外の飲み物はまず口にしない。『1Q84』(3-34)

Fearing that Tengo might appear if she went inside to the bathroom, she restricted her drinks to the hot cocoa.

「ココア以外の飲み物はまず口にしない」が *she restricted her drinks to the hot cocoa* (飲み物はホットココアに限定している) と訳されている。原文は「ココア以外の飲み物を飲むかもしれない」という予測を否定している。

でも今のところ足りないものはとくにないと思う。『1Q84』(3-44)

But I think I have everything I need.

英訳は「でも必要なものは全てあると思う」となっている。原文は「足りないものがあるかもしれない」という予測を否定している。

老人はそう言うと、口を開けずにコゲラのような声で笑った。『1Q84』(3-76)

The old man laughed, with his mouth shut. He sounded like a woodpecker.

「口を開けずに」が *with his mouth shut* (口を閉じて) と訳されている。原文は「笑うのであるから、口を開けるだろう」という予測を否定している。

しかし彼女は椅子から動かない。『1Q84』(3-97)

But she was glued to the chair.

英訳は「しかし彼女は椅子にへばりついたままだった」となっている。原文は「椅子を離れるであろう」という予測を否定している。

金属縁の眼鏡をかけた田村看護婦だけは、見かけも人格もとくに変化しなかった。『1Q84』(3-120)

Only Nurse Tamura, with her metal-framed glasses, looked and acted the same as always.

「見かけも人格もとくに変化しなかった」が *looked and acted the same as always* (見かけも行動もいつもと同じに思えた) と訳されている。原文は「(その場の他の人も変化しているので田村看護婦も) 変化しているであろう」という予測を否定している。

「変わりはないか？」とタマルは尋ねる。『1Q84』(3-154)

"Is everything going okay?" Tamaru asked.

「変わりはないか？」が *Is everything going okay?* (すべてうまくいっているか) と訳されている。原文は「変わりがあったかもしれない」という推測を否定している。

嘘ではありませんよ。『1Q84』(3-164)

This is the truth.

英訳は「これが真実です」となっている。原文は「(相手が)嘘だと思うだろう」という予測を否定している。

「嘘じゃないよな?」『1Q84』(3-501)

“You’re telling the truth?”

英訳は「真実を言っているか?」となっている。原文は「(相手が)嘘をついているかもしれない」という予測を否定している。

でもこれだけは誰にも渡さない。『1Q84』(3-421)

But this is one I am going to hold on to.

英文を和訳すると、「しかしこれは私がしがみつくつもりのものだ」となる。「誰かに渡すかもしれない」という予測を否定している。

3. ある一連の動作のどの部分を言語化するか

村上春樹『ダンス、ダンス、ダンス』に次のような文がある。

毎日ラジオにしがみついて、小遣いを貯めてレコードを買った。(上232)

この部分の英訳は次のようになっている。

I used to be glued to the radio every day. I spent all my allowance on records.

原文の「小遣いを貯めてレコードを買った」が *I spent all my allowance on records* (僕は小遣いを全部レコードに使った) と訳されている。日本語では「小遣いを貯めてレコードを買う」ことができるのであるが、英語の発想は「小遣いを使ってレコードを買う」である。

つまり、日本語では一連の動作のうち「小遣いを貯める」と「レコードを買う」が言語化され、英語では「小遣いを使う」と「レコードを買う」が言語化されているのである。

同じく『ダンス、ダンス、ダンス』に次のような文がある。

それで僕はそのテープをセットした。まずサム・クックが「ワンダフル・ワールド」を歌った。(上232)

この部分の英訳は次のようになっている。

No sooner had I punched the PLAY button than Sam Cooke’s “Wonderful World” came on.

英文を和訳すると「僕がプレーボタンを押すとすぐにサム・クックの『ワンダフル・ワールド』が鳴った」となる。「テープをセットしただけでは曲は鳴りださない」と英訳者は考えたものと思われる。つまり、原文には「プレーボタンを押す」が欠けているのである。

すると、上の「小遣い」の例の場合と合わせて考えると、一連の動作のうちのどの部分を言語化するか、が日本語と英語で異なっていることになる。

次例も同じ作品からのものである。

彼は肉を切ってゆっくりと味わって食べ、水割りを一口飲んだ。(上284)

この部分の英訳は次のようになっている。「水割りを一口飲んだ」は訳出されていない。

He brought a forkful of steak to his mouth and slowly savored the juiciness.

「肉を切って」が *brought a forkful of steak to his mouth* (フォークに刺したステーキを口に持っていった) と訳されている。「肉を切った」あと、「口に持って行く」ことをしなければ「味わう」ことはできない。

小松はハイボールのグラスを手にとって飲んだ。『1Q84』(3-360)

Komatsu picked up his glass and took a sip of the highball.

英文を和訳すると、「小松はグラスを手にとってハイボールをすすった」となる。「グラス」を「飲んだ」のではない。

4. 英語では「足りないもの」は「買えない」

村上春樹『1Q84』に次のような文がある。

足りないものは、高円寺駅前の商店街で買い揃えた。『1Q84』(3-263)

これは、主人公の一人が、新しい部屋で生活するために必要なものをリストアップして揃え、荷造りを済ませた後に出てくる文である。

この部分の英訳は次のようになっている。

He bought the additional things he still needed in the shopping district in front of Koenji Station.

「足りないもの」が、*the additional things he still needed* (さらに必要な物) と訳されている。

この例から推測できることは、英語では「追加物 (additional things)」を「買う (buy)」ことはできるが、「足りないもの」をたとえば *what is lacking* などとして、*buy* の目的語にすることはしないのではないかと、ということである。つまり、英語では「足りないもの」は物として存在していないので「買うことができない」のである。

もっとも、この場合の「足りないもの」は、「ある時点で必要であると気づいたもの」という意味である、と言えるが、ここでは「足りないものを買って揃える」という表現だけを考えた。

次の参考例とそれに続く例は、同様に考えられる例ではないかと、筆者は考えている。

(参考例)

玄関の郵便受けを開けると、部屋の合鍵がそこに入っていた。『1Q84』(3-240)

He opened the mail slot inside the front door and found the spare key.

「合鍵がそこに入っていた」は *found the spare key* (合鍵を見つけた) と訳されていて、主語との関係性が表されている。

しかし、次例参照。

アパートの部屋に戻ったとき、ふかえりはいなかった。『1Q84』(3-240)

When he got back to the apartment, Fuka-Eri wasn't there.

原文は上例と同じ構文と考えられるが、「ふかえりはいなかった」は Fuka-Eri wasn't there と訳されていて、主語との関係性が表されていない。

この英文の構文の違いは、「入っていた」と「いなかった」の違いに起因すると考えられる。「ないものは見つけられない」のである。

引用文献

村上春樹『ダンス、ダンス、ダンス』（講談社文庫）

『世界の終りとハードボイルドワンダーランド』（新潮文庫）

『海辺のカフカ』（新潮文庫）

『スプートニクの恋人』（講談社文庫）

『アフターダーク』（講談社文庫）

『1Q84』（新潮社）

Haruki Murakami, Dance, Dance, Dance (Vintage)

Hardboiled Wonderland and the End of the World (Vintage)

Kafka on the Beach (Vintage)

Sputnik Sweetheart (Vintage)

After Dark (Vintage)

1Q84 (Vintage)

原文の引用ページ数は、『1Q84』はハードカバー、他は文庫版による。

引用作品 略号

『ダンス、ダンス、ダンス』→『ダンス』

『世界の終りとハードボイルドワンダーランド』→『世界』

『スプートニクの恋人』→『スプートニク』

『海辺のカフカ』→『カフカ』